

■八尾市町会加入促進検討会議（主なご意見）

（凡例）3回目のご意見に下線

現状と課題

（1）町会加入の現状と課題

- ・建売住宅ばかりの地域のため、町会加入率は100%。
- ・50世帯程度の規模なので、マンション以外の加入率は高い。
- ・地元の町会加入率は64%。地域性によって加入率に違いがでてくるのでは。
- ・単身世帯が増加すれば、加入率が低下するのは目に見えている。
- ・戸建住宅は全戸加入しているが、マンションは出入りが激しいため誘いにくい。

（2）町会に加入しない理由、退会する理由

●町会役員、特に町会長の負担感が大きい

- ・「町会長以外の役であれば構わない」という方もおられる。
- ・「町会の役が回ってくるのが大変」ということで、班単位で退会する例もみられる。
- ・配布物程度はよいが、市民スポーツ祭などで先導しないとけないのが負担。
- ・町会長は、何かを決断しないとけない場合があるので荷が重い。
- ・「忙しい」「子どもがまだいない」「役があたる」ので町会に入らない方がおられる。

●町会に加入しなくても、特に不自由を感じないので加入しない

- ・ごみ袋や市政だよりは取りに行けば済むので、加入しなくても不自由がない。
- ・「小さい子どもがいない」「高齢者でない」「ごみ袋を取りにいける」方が退会する。

（3）町会活動における課題

●町会の位置づけ・役割が十分に知られていない

- ・自治振興委員の成り立ちや役割を知っている人が少ない。
- ・町会未加入世帯は防犯灯の費用を負担しておらず、不公平感がある。
- ・賃貸住宅では単身者などが多く、町会を知らない人が増えている。

●町会長をしていて気にかかること

- ・一人暮らしの高齢者のことが気にかかる。近隣が声かけをしてくれるので安心。
- ・町会長をしているが、いざ何かあったときにどこに連絡を取ればよいのか迷う。

●様々な団体が活動し、活動に重複感

- ・様々な団体が活動し、活動内容が重複している。

（4）町会活動での工夫

●一人暮らし高齢者を協力して見守り

- ・一人暮らしの高齢者について民生委員と一緒に担当を決め、隣近所で見守り。
- ・地域の一斉清掃の時に、独居高齢者の家の周りは役員や近所の方が清掃。

●楽しいイベント

- ・小さいお子さんがおられる方は、市民スポーツ祭で和気あいあいとされている。

●住民の皆さんとの会話

- ・防犯灯をすべてLEDに変えたが、そのことで住民のみなさんと会話できた。

取組の方向性

（1）町会の役割・意義

●まちをよくするために、いざという時に助け合えるように

- ・震災で、行政自体が被災し支援できない状況があったことから、地域コミュニティが重要であることを実感。
- ・いざという時のためにも日ごろのお付き合いが大事。
- ・地域コミュニティの最も基礎的な部分が「向こう三軒両隣」であり、その集合体が「町会」である。
- ・町会加入は地域コミュニティ醸成や共助精神の涵養のため。
- ・八尾が良くなるためには、町会が良くなる必要。

（2）町会活性化を考えるにあたって大切なこと

●重要性はわかっているが…という現状をどう受け止めるか

- ・「近所づきあいは防犯活動につながる」と認識されている方は多いが、「近所づきあい」をしている人は少ない。
- ・町会活動を真っ向から否定する人は少ないと思う。

●住民にメリットを伝えていくこと

- ・困ったことが起こったとき、自分たちの利益に直結するようなことがあれば町会に入っていただけたらと思う。
- ・町会に入ること、地域の様々な活動の輪に入っていくことができる。町会に入らないと地域で孤立しかねない。

●町会の成り立ちから課題を整理すること

- ・町会の成り立ちや福祉委員会の取組、市の取組の掘り起こしをして問題を明らかにすることが必要。

（3）町会がめざす方向性

- ・「入っていてよかった」と思える町会にしたい。
- ・大事なものは「町会を通じてまちづくりがどれだけ活性化できているか」ということ。町会加入数が増えても、いざというときに誰も動かなければ全く意味がない。
- ・町会活動が魅力的なものになっているか吟味し、まちづくりの中心としてあり続けられるのかを見定めることが必要。
- ・町会は行政の下請ではない。地域の課題を議論し、解決していける創造的な活動をしていくことが求められる。
- ・地域活動に関わりたくないという人は4%しかいない。
- ・町会と福祉委員会、校区まちづくり協議会の役割整理が必要。
- ・町会と行政は協働で市政を進めていくもの。
- ・新しい催しや住民同士の交流を盛んにすると好循環が生まれる可能性がある。その前提条件として、町会をある程度の規模（例：100～200世帯）にしていくことが必要かもしれない。スケールメリットにより、収入や人材が確保しやすくなる。
- ・町会長を何年か担うことで、町会活性化の方向性が見える。
- ・「町会運営をしたい」人が、リーダーシップをもってある程度長期引っ張ること、やりたい人に任せる仕組みが必要。但し、監査の仕組みは必須。

（4）町会加入促進のポイント

- ・戸建やマンションなど様々な住宅が建っている地域では、地域の実情に合った対応を検討する必要がある。
- ・20代や賃貸住宅の住民へのアプローチが重要。
- ・行政、民間事業者、管理組合、オーナー、町会長が一緒になって加入促進に取組ることが大事。

取組例(アイデア)

（1）町会活動を活性化するために

- ・活動拠点となる「集会所」を充実する。拠点があれば相談しやすい。個人宅へは相談に行きにくい。
- ・法人化することにより共有意識が芽生え、町会運営が上手くいった事例あり。
- ・中年の方が集まる機会がないので、食事会などをして、町会に対する思いなどを聞いてみる。
- ・各町会と行政とを連絡する司令塔を作ってはどうか。
- ・公園に集会所の整備を。
- ・高齢者の個人情報の適切な共有を。
- ・行政との連携窓口は校区まちづくり協議会に一本化を。
- ・校区まちづくり協議会設立準備会の取組状況がわからない。
- ・町会運営を担う人材育成のための研修を。
- ・町会で市民相談を実施する。（法律相談、税務相談など）
- ・ツイッターやフェイスブックなどを活用すると、若い世代とつながる可能性がある。

（2）町会加入を促進するために

[全般]

- ・新しい転入者を訪問し、防災などの町会活動を説明。
- ・町会に関する条例を導入してはどうか。
- ・「知らない」「きっかけがない」「加入方法がわからない」人が多いので、積極的に勧誘すれば加入の可能性はある。
- ・町会加入のメリット（情報入手、暮らしの安心）のPRを。
- ・情報提供・PRがポイントになる。町会長以外にも加入促進を行う仕組みづくりを。（市役所窓口、不動産業界など）
- ・町会に入るメリットがあるとよい。
- ・町会に入らないと損になるような取組も必要ではないか。
- ・八尾市情報発信コーナー(アリオ八尾内)を町会のPRに活用しては。
- ・転入手続きの際に町会を説明すれば「知らない人」はなくなる。

[マンション等]

- ・小規模マンションや賃貸住宅はオーナーが一括加入。
- ・マンションにお住まいの方でも町会の大切さを理解している人はいると思うので、1軒ずつ回って1対1で話してみる。
- ・マンションは部屋番号でだけで表札がないため誰が住んでいるのかがわからない。「町会に入りませんか」と連絡先を書いたチラシを配り、反応をみたい。
- ・未加入マンションへのごみ袋の配布の見直しを。
⇒ごみ袋の配布方法は行政も頭を悩ませている。
- ・マンションは管理組合とは別に町会の設立を。
- ・マンションの建設段階からオーナーに頼んでおくと加入される。
- ・建築指導の担当課が、開発事業者に町会加入を要請する。
- ・マンションの一部の世帯でも町会に加入できる選択肢を。
- ・マンションの管理組合に出席し、町会について説明する。
- ・建設事業者コミュニティ担当者の選任を求める。（金沢市事例）

（3）町会加入の継続を促進するために

- ・「高齢で役を担えない」という人にお話して継続を促す。
- ・高齢のため班長ができないため脱会されるような申し出があれば、事情を説明して次の順番の方に代わってもらう。
- ・町会では高齢者の役を免除している。

（4）検討にあたっての留意点

- ・先進事例をそのままあてはめても上手くいくとは限らない。八尾市独自の取組やまちづくりのあり方を考えることが必要。